

京都府立医科大学小児外科では、以下の研究を開始しました。

「小児肝疾患の予後関連因子の解析」(京都府立医科大学倫理審査委員会承認、研究期間(承認日から平成37年3月31日まで)、研究責任者 田尻 達郎)

小児期に発症した肝臓の病気は、経過によって肝硬変となることがあり、特に胆道閉鎖症は肝移植への移行が多い状態です。また、胆道拡張症では成人期の胆管癌発症のリスクも報告されています。小児期発症の肝疾患の患者さんの長期的フォローにおいて、予後に関連する因子を同定し、それに即した治療、経過観察を行うことで予後の改善をはかることがこの研究の目的です。

手術や検査の際に切除された組織の余剰部位の1部や、血液検査の際に余った検体を使わせていただき、これらの肝疾患の予後に関連する因子を調べていきます。

今回以下の基準に該当する方を対象者とさせていただきます。

小児がんと診断された0歳以上50歳未満の患者さん。

当院で検査、手術時に診断のために採取された組織、検体の一部を研究に用いるため、対象となる患者さんに余分なご負担をおかけすることはありません。また、この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが、お名前、生年月日、住所などの個人情報にかかわるデータは一切使用いたしません。

上記の研究に同意されない場合でも、診療上で患者さんが不利益を被ることは一切ありません。また上記研究に関して、ご不明の点がございましたら、いつでもお問い合わせください。

京都府立医科大学大学院小児外科学

電話番号 075-251-5809

担当者名 文野誠久